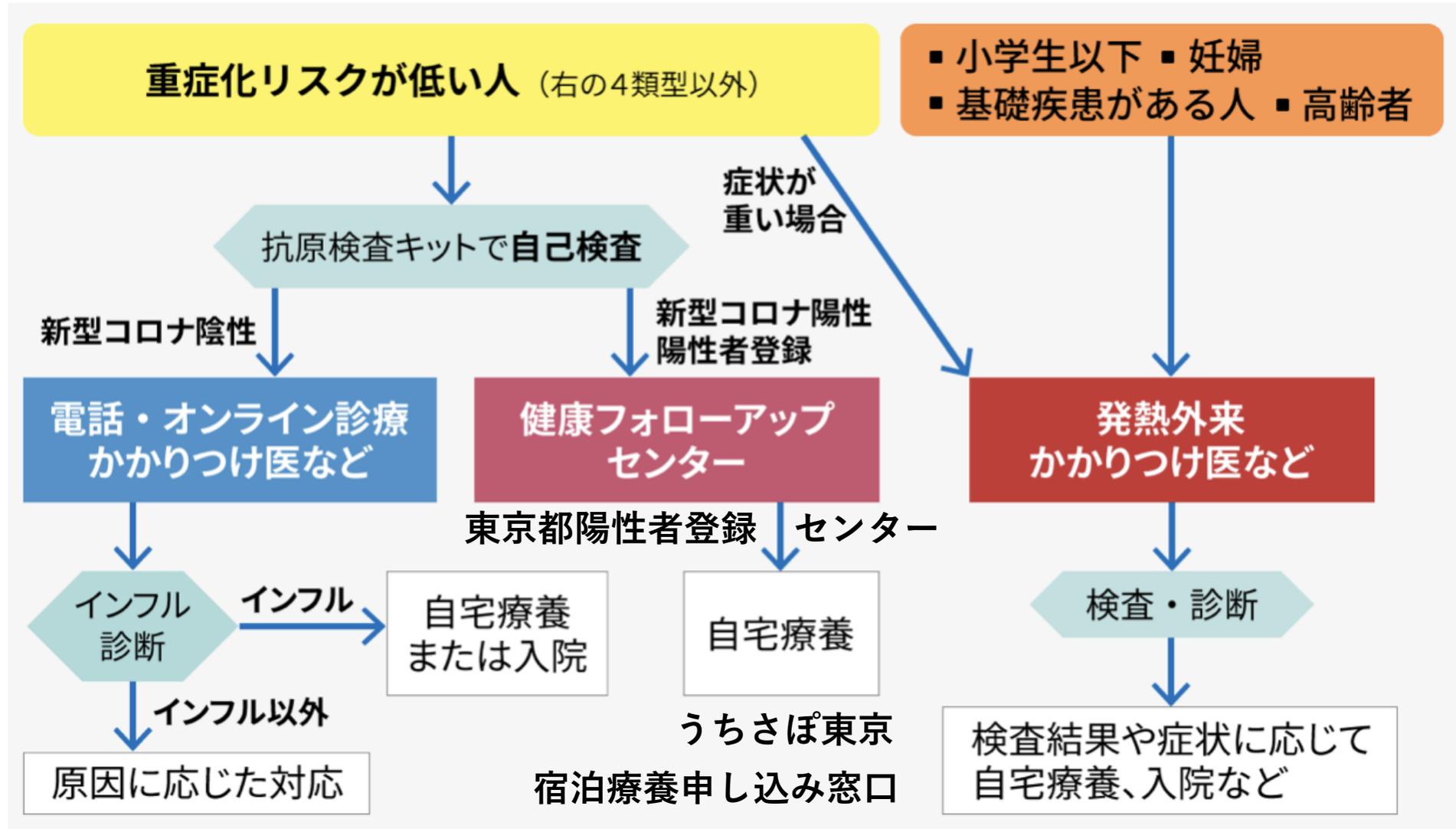


# 新型コロナとインフルエンザの 同時流行に向けて

東京都医師会 理事  
鳥居 明

# 新型コロナとインフルエンザの同時流行時の対策



# 新型コロナとインフルエンザの同時流行時の流れ

- 発熱等体調不良時、重症化リスクが低い人は新型コロナ抗原検査キットで自己検査
- 新型コロナ抗原検査で陽性の場合は、東京都陽性者登録センターに自己登録し、解熱薬等を内服して自宅で療養
- 新型コロナ重症化リスクが高い人は診療・検査医療機関で診療
- 新型コロナ：診療費自己負担分は公費で負担
- 新型コロナは現在全例把握ではなく、重症化が予想される場合のみ全例届出、他は年齢別総数のみ報告（感染症法上2類相当）
- 新型コロナ抗原検査陰性の場合は医療機関でインフル抗原検査
- インフル抗原検査陽性の場合は、抗インフルエンザ薬を投与
- インフルは定点把握（感染症法上5類）

# 同時流行医療逼迫時対策案の問題点

- \* 発熱患者が新型コロナ抗原検査陰性でもインフルエンザとは限らず、その他の感染症の可能性も考える必要がある。

インフルエンザの検査をせず、電話診療・オンライン診療で医師の臨床診断により抗インフルエンザ薬等を処方することには、問題がある。

成人：肺炎、扁桃腺炎、敗血症

小児：手足口病、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス

- \* 新型コロナの変異により新型コロナ抗原検査の偽陰性率が高くなる。

- \* 検査施行条件により偽陰性率が高くなる。

(発症後6時間以内、体温 $37.5^{\circ}\text{C}$ 以下では偽陰性が多い)

- \* 唾液による新型コロナ抗原検査の自己検査の場合は、検査前のうがいなどの条件により偽陰性率が高くなる。

- \* インフルエンザの臨床診断がついた場合、全例に「抗インフルエンザ薬」を処方する必要があるか問題がある。

# 現在の新型コロナとインフルエンザの比較

	新型コロナ	インフルエンザ
検査	新型コロナ抗原キットで自己検査 医療機関で抗原検査、PCR検査	医療機関でインフルエンザ 抗原検査
治療	自宅療養 (入院・宿泊療養)	抗インフル薬投与 自宅療養
届出	重症化が疑われる症例 のみ全例把握	定点把握
診療機関	診療・検査医療機関	全医療機関
感染症法上の類型	2類相当 自己負担分公費	5類 保険診療

# 今後の方向性

## A. 発熱外来（診療・検査医療機関）を拡充する方向（現段階）

- ① 発熱外来（診療・検査医療機関）の増強
- ② インフルエンザ検査、インフルエンザ処方のみ対応する医療機関を募る
- ③ 医療機関を公表して、感染拡大時にも受診可能とする

## B. 発熱外来（診療・検査医療機関）への受診を抑制する方向（医療逼迫時）

- ① 重症化リスクの低い人は薬局で購入した新型コロナ抗原キット  
あるいは自治体配布の新型コロナ抗原キットで自己検査
- ② 陽性であれば自宅療養
- ③ 陰性であれば医療機関（対面診療、電話・オンライン診療）で  
インフルエンザ抗原検査を受ける
- ④ インフルエンザ陽性の場合には抗インフルエンザ薬を薬局で受け取り  
あるいは薬局より配送

## C. 新型コロナを通常医療で対応する方向（将来：2類相当から5類への移行）

全医療機関で発熱患者に対応し、通常の診断、治療を行う